

近江八幡市文化講演会

「源氏物語の魅力に迫る」

日時： 11月23日(土)

13:30～16:00(受付12:30～)

場所： 近江八幡市文化会館 大ホール

参加費(資料代)：300円

内容：第一部 「源氏物語桐壺巻と七弦琴」

語り：今井 友子氏、七弦琴：伏見 无家氏

第二部

講演1 新聞 一美氏 元京都女子大学教授

講演2 山本 登朗氏 関西大学名誉教授

講演3 伏見 无家氏 七弦琴奏者 疇社琴社主宰

講演4 今井 友子氏 佛教大学非常勤講師

第三部 パネルディスカッション

大河ドラマ「光る君へ」
が終盤を迎えていますが、改めて
源氏物語の魅力に迫るため、源氏物語
のご専門の先生方にご講演と合わせて
討論の機会を持ちたいと思います。
なぜ源氏物語が1000年以上の長きに渡っ
て、読み親しまれてきたのか？
今回の講演会を通して皆様のご理解
と共感を深めていただくと
嬉しいです。



講演1 「源氏物語と白楽天の“雪月花”」新聞 一美氏

紫式部が琵琶湖に映る十五夜の月を眺めて源氏物語の構想が浮かんだと伝わる。それらの場面と、漢文学白楽天作品との関わりについて語る。

講演2 「近江と源氏物語―“関屋”巻の冒頭を読む」山本 登朗氏

源氏物語は様々な形で近江が出てくるが、今回は山城国と近江国をつなぎ、同時に隔ててもいる逢坂の関について考える。

講演3 「光源氏が語る琴論」伏見 无家氏

“若葉下”で光源氏が琴について語る。これは日本最初の琴論で、音楽の本質を述べるのは驚くべきことである。近江八幡に縁のある熊沢蕃山の琴論とも比較する。

講演4 「豊臣秀次公と源氏物語」今井 友子氏

秀次公は関白になる三年前に三条西実隆・公条親子筆の源氏物語を入手した。秀次公と源氏物語の関わりについて語る。

討論会 1000年以上親しまれてきた源氏物語の魅力と謎を先生方に率直に語っていただく。

講師紹介

新聞 一美 (しんま かずよし) 氏

1949年生れ 京都大学大学院博士課程修了
博士(文学) 京都女子大学教授を経て現在は
関西大学大学院講師 和漢比較文学会常任理事
東アジア比較文化国際会議日本支部長
専門は平安朝文学における中国文学受容の研究



山本 登朗 (やまもと とくろう) 氏

1949年生れ 京都大学大学院博士課程修了
博士(文学) 京都光華女子大学文学部教授、
関西大学文学部教授を経て現在は
京都光華女子大学名誉教授、関西大学名誉教授
専門は平安朝文学



伏見 无家 (ふしみ むか) 氏

1956年東京生れ 1988年 東洋学研究所
2002年 鎌倉琴社設立
2014年 京都で疇社琴社設立
疇社琴社主宰・東洋琴学研究所副所長
専門は打譜・弹琴・琴学研究



今井 友子 (いまい ともこ) 氏

1958年近江八幡市生れ 元アナウンサー
京都女子大学大学院博士課程修了 博士(文学)
佛教大学非常勤講師、滋賀 YMCA 講師
専門は古語の語りと源氏物語における
説話受容の研究



主催：近江八幡市文化協会

後援：近江八幡市

連絡先：近江八幡市文化協会会長 浅岡徹夫

携帯電話：080-1442-7715

メール：hghttp380@yahoo.co.jp